

【CSDのインストールとライセンス登録の注意点】（詳細は、CCDC website等Installation Note参照）

以下、2020年12月にリリースされたCSD2020.3を例に説明する。

実際のインストール方法は、CCDCのwebsite等のInstallation Note参照のこと。

最新版のリリース状況については、CCDCのwebsiteのWhat's New参照のこと。

1. CSDパッケージソフトは、CSD2020.3とCSD-CrossMiner2020.3から構成される。CSD2020.3は、2020年12月にリリースされたFullリリースである。既存ユーザは、古いversionをuninstallし、CSD-CoreおよびCSD-Materialsユーザは、CSD2020.3のみインストール。CSD-DiscoveryおよびCSD-Enterpriseユーザは、CSD-CrossMinerもインストールする。
2. CSDパッケージソフトは、Fullリリースの他、Patchリリース(Software update)がある。Patchリリースの場合、古いversionのuninstallは不要でpatchあてすればよい。その他、追加データがData updateとしてリリースされるので、適時追加する。
→Software updateおよびData updateは、不定期に年約4回。リリース番号とリリース年が一致していない場合がある(例：CSD2020.3.1は2021年3月にリリース)。Fullリリースも不定期。Fullリリースは**必ず**インストールのこと。Patchリリースの適用は任意。
→最新および過去のリリース状況(時期や内容)について確認したい場合は、CCDCのwebsiteのWhat's Newを参照。
3. インストール後、Licence Activationが必要となる。状況としてCSD2020.3には、CSD-Core、CSD-Materials、CSD-Discoveryのすべてのプログラムが含まれており、ユーザ毎に発行されるActivation keyにより、利用できる機能を制御している。例えばCSD-CoreからCSD-Materialsへ契約をアップグレードした場合、再インストールは不要で新しく発行されるActivation keyを再登録する(activateする)だけで、CSD-Materialsの機能が使えるようになる。Licence Activationは、大きく分けて2種類(CSD個別登録とCSD社内ライセンス・サーバ登録)ある(次ページ参照)、
→ユーザアカウントの権限の問題等により簡単にActivationできない場合がある。うまくいかない場合は、個別対応。
4. WebCSDは、CCDCのサーバへアクセスして使用するため、IP addressの登録が必要。CCDCのサーバ上のIsoStarを利用する場合は、ローカルにCSDをインストールしてあればOK。IsoStarをin-houseサーバ上で使用する場合は、別途Linuxサーバが必要。詳細はInstallation Note参照。

★ 2020年12月よりCSD-Systemは、CSD-Coreと名称変更。CCDCや弊協会作成資料の一部は、旧名称のままとなっている。

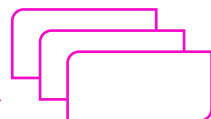
★ 企業向けライセンスを念頭に作成。ご契約内容により手順や実行可能な機能等異なる場合がある。ご了承ください。

重要：CSDのライセンス登録方法（詳細は、CCDC Software Activation ToolのHelp file参照）

【CSD個別登録】

★Customer IDと一緒に渡される
Activation key使用
(upgradeしない場合、前年と同じ)

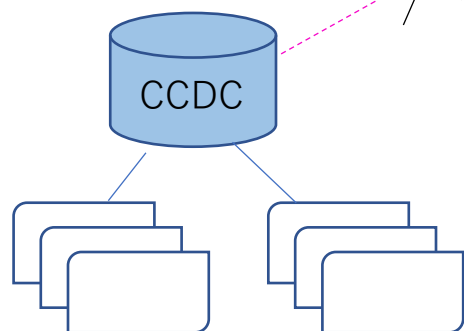
2. Off-line登録



インストール後、CCDC Software Activation Toolまたはコマンドライン共に
個々にライセンス登録のためのLicenceRequest.licreq fileを作成し、JAICIまたは
CCDCに送り、ライセンスファイル(dat)を入手する。ライセンスファイルを
入手したら、各User毎にActivation ToolまたはコマンドラインからActivationする。

◆コマンドラインの場合、
`ccdc_activator.exe -k 123456-123456-123456-123456-123456-123456 -g -f
C:%Users%myusername%LicenceRequest.licreq
ccdc_activator.exe -k 123456-123456-123456-123456-123456-123456 -o -f
C:%Users%myusername%LicenceResponse.dat`
★同じmachineであれば、別Userでも同じLicenceResponse.datを使用できる。
★注意：2021年4月より前に発行されたLicenceResponse.datには有効期限あり。

1. On-line登録



【CSD2020インストール済みの場合】

◆CSD2020.3は、Fullリリース版のため、CSD2020は、uninstallすること。

【新規にインストールの場合】★2020年12月リリースのCSD2020.3は、こちら。

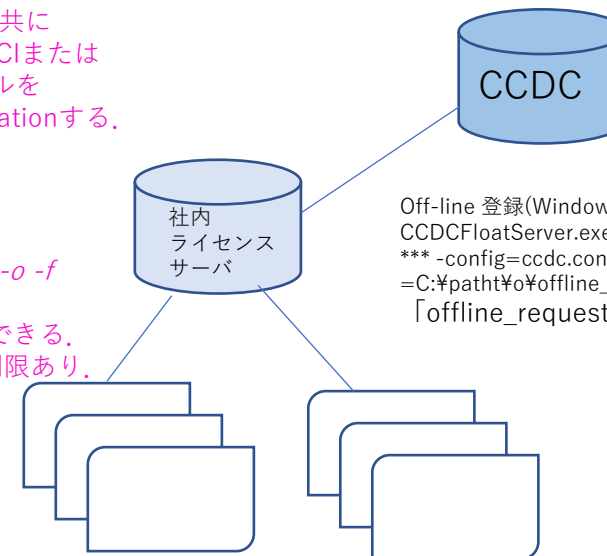
- 【おススメ】Admin権限でCSDをインストールし、All userで使用可とした上で、
インストールと同時にライセンス Activateを選択する。続けて、各ユーザアカウントからCSDを
起動すると、初回起動時に自動でActivationが実行される(裏で実行される)。
→各ユーザで登録が終わるまでインターネット接続が必要。
- Admin権限でCSDをインストールし、あとでライセンスActivateするを選択すると
All userで使用可とした場合でもインストール後、CCDC Software Activation Toolを使って、
ユーザ毎でのActivationが必要。
- Admin権限でCSDをインストールし、All userで使用可とした上で、インストール後、
コマンドラインからライセンスActivationする場合、-Aのオプションを使うと、
ユーザ毎に初回起動時、自動でactivationが実行される。(裏でactivationが実行される)
`ccdc_activator.exe -A -a -k 123456-123456-123456-123456-123456-123456`
- コマンドラインからUser毎にActivationする場合は、
`ccdc_activator.exe -a -k 123456-123456-123456-123456-123456-123456`

★ライセンスActivation終了後は、インターネット接続不要

【CSD社内ライセンス・サーバ登録】

★サーバ用Activation keyを別途、Requestする必要あり。
ご希望の場合、お申し出ください。(upgradeしない場合、前年と同じ)

3. 社内ライセンス・サーバによる登録



Off-line 登録(Windows)の場合:
`CCDCFloatServer.exe -g -licensekey=***.***.***.***.***.
*** -config=ccdc.config -productfile=ccdc.dat -offlinerequest
=C:%path%o%offline_request.txt`
「offline_request.txt」をJAICIまでお送りください。

- 社内ライセンス・サーバ用に、サーバ用Activation keyをJAICI/CCDCにリクエスト
し、入手する。
- On-lineまたはOff-lineでライセンス・サーバの登録を行う。
- ライセンス・サーバを起動した後、個々のUserのCCDC Software Activationを
起動し、Configure Local Serverでライセンス・サーバを指定する。

コマンドラインの場合、PC毎のActivationも可能。
`ccdc_activator.exe -A -s http://myserver:1234`
(各ユーザの初回起動時に自動でactivationを行うので、
その時にライセンス・サーバとの接続が必要)

★ライセンス・サーバは、実サーバであることが必要。
ライセンス・サーバのOSは、利用PCのOSと一致しなくともよい。